

シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数
社会情報学演習（1） （6）	2020	通年	水4	文学部 社会学専攻、 社会情報学専攻（情報コミュニケーションコース）、 社会情報学専攻（図書館情報学コース）	辻 泉	3年次配当	4

履修条件・関連科目等

<関連科目>

「メディア文化の社会学（1）」「メディア文化の社会学（2）」
ゼミ担当教員の講義科目であるので、早めに履修しておくことが好ましい。

授業で使用する言語

授業で使用する言語（その他の言語名）

授業の概要

テーマ：「ポピュラー文化とメディア」

本ゼミの目的は、ポピュラー文化の実態を通して現代社会を理解することである。そのように、ごく身近な現象から社会全体を見通していくことが、文化社会学の醍醐味である。

現代のポピュラー文化は、メディア文化、消費文化、集団文化といった特徴を持つが、この点は、ファンやマニア、オタクといわれる人々のふるまいを考えると分かりやすいだろう。様々なメディアに接しながら、モノや情報を消費しつつ、それを仲間とともに楽しむ・・・といったふるまいは、多くの人々にもあてはまるものである。

このようにポピュラー文化とは楽しいものであるが、ただ、それを楽しんで終わらせてしまうのではなく、むしろ研究対象として大真面目に考えられるメンバーとともに、その実態を掘り下げていきたいと考えている。

科目目的

3年生の最終目標はゼミ（準備）論の提出。4年生になってから卒論や卒業研究論文で慌てることのないように、少しずつでも準備をすすめて欲しい。

4年生の目標は、オリジナリティあふれる卒業研究論文や卒業論文の完成。

いずれにせよ、ゼミ中は必ず発言し、自分の意見を他の人に伝えると同時に、自分とは違う、他の人の考え方があることを理解し、視野を広げていって欲しい。

到達目標

授業計画と内容

文献講読を中心に、ゼミ生各自のオリジナル報告を適宜行ってもらおう。

1. 文献購読・ゼミ討論について

ポピュラー文化とメディアに関する研究文献を指定し、毎回報告者およびコメンテーターを決めて、議論を進めていく。文献購読に基づくゼミ討論は、複数の班に分かれ、役割を分担し、いくつかの論点についてゼミでディスカッションを行う。当然のことながら、報告者・コメンテーター以外の出席者も、文献を読んできた上で、活発に発言すること。

2. オリジナル報告について

4年生は卒論・卒業研究論文に向けて、3年生はその準備段階としてのゼミ（準備）論文に向けて、各自が設定したテーマに基づくオリジナル報告を行う。

<前期>

- ・4年生のオリジナル報告
- ・3年生のオリジナル報告
- ・ゼミ討論 の順に進める予定

<後期>

- ・ゼミ討論の続き
- ・3年生のゼミ（準備）論に向けたオリジナル報告
- ・4年生の卒論指導 の順に進める予定。詳細は以下の通り。

<前期>

- 第1回 前期イントロダクション
- 第2回 オリジナル報告～4年卒論を中心に（1）（プレゼンテーション、ディスカッション）
- 第3回 オリジナル報告～4年卒論を中心に（2）（プレゼンテーション、ディスカッション）
- 第4回 オリジナル報告～3年ゼミ論を中心に（1）（プレゼンテーション、ディスカッション）
- 第5回 オリジナル報告～3年ゼミ論を中心に（2）（プレゼンテーション、ディスカッション）
- 第6回 班決め、テキストの確定など（グループワーク）
- 第7回 A班 発表とディベート（一回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）
- 第8回 B班 発表とディベート（一回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）
- 第9回 C班 発表とディベート（一回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）
- 第10回 D班 発表とディベート（一回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）
- 第11回 A班 発表とディベート（二回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）

- 第12回 B班 発表とディベート（二回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第13回 C班 発表とディベート（二回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第14回 D班 発表とディベート（二回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）

<後期>

- 第15回 後期イントロダクション
 第16回 A班 発表とディベート（三回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第17回 B班 発表とディベート（三回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第18回 C班 発表とディベート（三回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第19回 D班 発表とディベート（三回目）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第20回 振り返り・ディベートの総括（グループワーク）
 第21回 オリジナル報告～3年ゼミ論を中心に（1）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第22回 オリジナル報告～3年ゼミ論を中心に（2）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第23回 オリジナル報告～3年ゼミ論を中心に（3）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第24回 オリジナル報告～4年卒論を中心に（1）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第25回 オリジナル報告～4年卒論を中心に（2）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第26回 オリジナル報告～4年卒論を中心に（3）（プレゼンテーション、ディスカッション）
 第27回 オリジナル報告の意見交換（グループワーク）
 第28回 全体の総括・まとめ

※ただし受講生数やその他の事情により、相談の上で内容を変更することがありうる。

※4年の卒論、卒研論指導については、授業時間外に指導を行う場合がある。

授業時間外の学修の内容

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

オリジナル報告については、各自でテーマを持ち、文献資料や各種のデータ収集など、常日頃から問題意識を持った取り組みが必要である。ゼミ討論についても、報告者・コメンテーターはもとより、出席者全員が熟読の上、ゼミ後も、インターネット上などで議論を継続してくれるとうれしい（教員も、SNSを使って積極的に、そうした議論を触発するように努力する予定である）。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準（備考）

平常点（発表の内容や、議論・ゼミへの参加・出席の度合い）とレポート、論文をもとに評価する。前者が50%、後者が50%の割合で評価を行う。

※なお、4年生以上で履修する社会情報学演習（6）は卒業論文あるいは卒業研究論文の合格をもって単位が与えられます。この点くれぐれもご注意ください。

課題や試験のフィードバック方法

課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）

アクティブ・ラーニングの実施内容

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）

授業におけるICTの活用方法

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

【実務経験有の場合】実務経験の内容

【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<参考文献>

南田勝也・辻泉編『文化社会学の視座』ミネルヴァ書房
 高野光平・加島卓・飯田豊編『現代文化への社会学—90年代と「いま」を比較する』北樹出版
 土橋臣吾・南田勝也・辻泉編『デジタルメディアの社会学』北樹出版
 宮台真司監修『オタク的想像力のリミット』筑摩書房
 宮台真司・辻泉・岡井崇之編『男らしさの快楽』勁草書房
 岸博幸『ネット帝国主義と日本の敗北』幻冬舎
 馬場伸彦・池田太臣編『「女子」の時代！』青弓社
 橋元良明『メディアと日本人』岩波書店
 小林盾『ライフスタイルの社会学—データからみる日本社会の多様な格差』東京大学出版会

※上記の文献の中から受講者と相談の上、2～3冊程度をテキストとして指定する予定。

その他特記事項

・ゼミであるので、毎回出席すること。

（原則として遅刻は2回で欠席1回としてカウントし、またやむを得ない理由による欠席の場合は、届けを沿えて半期で3回までとし、それ以上は自動的に不可とする。）

- ・また、必ずゼミの準備をしてください。
(ゼミの準備を怠った場合は、1回あたりマイナス20点とする)
- ・その他ゼミ関連の行事にも毎回参加すること。夏休みには可能な限り合宿を行いたい。

参考URL

コメント1

コメント2

コロナウィルス対応に関する変更点など

・テキストについて
どれを用いるか決定後、オンライン授業の間は、manabaなどを通して配布の予定。
参加者は、ぜひプリンターを用意しておいてほしい。

・授業形態について
WebexまたはZoomを使って、本来の授業時間帯に行う予定。
最初は個人の研究発表、そのあとで文献購読に入る予定。
このゼミについては、対面での授業と同様に出欠を取り、欠席や遅刻についてもカウントするので、規則正しい生活を心がけ、休まないようにしましょう。

コメント3

コメント4
